

# オリーブの会通信

2017年2月1日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会

〒760-0043 高松市今新町4番地20

連絡先 TEL 087-802-2568

<http://khj-olive.com/> (隔月発行移行後第11号)



(季節の花 ガーベラ)

今年もはや1月を経過し、間もなく立春を迎えますが皆様お変わりありませんでしょうか。新しい年を迎え新たな希望をもって会員相互の絆(交流)を更に深めるとともに、オリーブの会の裾野を広めるため、会員の皆様は、万障お繰り合わせのうえ、月例会に足を運びましょう。そして、それぞれの想いを語り合しましょう。

## 第176回月例会ご案内

日時	2017年2月26日(日) 13:30~16:30 (受付:13:00~)
場所	香川県社会福祉総合センター 6階(第1・第2研修室) 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334
内容	☆一部 13:30~15:00 講演 「生活保護制度の概要と相談窓口等について」 講師：香川県健康福祉部健康福祉総務課 生活福祉・法人指導グループ主任 鈴木 孝紀 氏 15:00~15:15 休憩 ☆二部 15:15~16:30 グループ別話し合い
参加費	会員：1,000円 会員以外：1,500円

## 第177回月例会ご案内

日 時	2017年3月26日（日）13：30～16：30（受付：13:00～）
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階（第1・第2研修室） 高松市番町1-10-35      Tel 087-835-3334
内 容	☆一部 13：30～15：00 「研修会、セミナー参加者による報告」 「香川県オリーブの会への期待と今後目指すべき方向」（提言）など 報告者、提言者は選考中 15：00～15：15    休憩 ☆二部 15：15～16：30    グループ別話し合い
参 加 費	会員：1,000円    会員以外：1,500円

## 第174回月例会（12月18日）の概要

### ○ 「報告連絡事項」（松本代表理事）

11月20日（日）の高松市大西市長との「ふれあいまちかどトーク」について

- (1) 市側出席者：市長、高松市保健センター所長はじめ関係部署の総勢約10名
- (2) 当会発言項目は、①ひきこもり対策全般（堀井）②傾聴の場（平野）③中間就労（泉）に加え  
相談業務の報告（川井）、ひきこもりの実態調査（丸岡）であり司会は松本が担当した。

— 関連事後報告 —

- ・「ふれあいまちかどトーク」を踏まえ、12月12日高松市定例議会で春田議員が「相談窓口の年齢引き上げ」と「傾聴の場」に関して質問し、市長から前向きと思える答弁をもらった。
- ・オリーブの会との「ふれあいまちかどトーク」の様子が高松市のホームページにアップされ市民をはじめ広く社会に当会が紹介されるという波及効果が生まれた。

○ホームページ名 <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/27781.html>

### 一部：講演「この1年の振り返りと来年に向けて」

講師：NPO法人グローバルシップスこうべ 代表理事 森下 徹氏（司会進行兼務）

#### 「森下代表」

8年前にオリーブの会と出会って以降「ホームページの作成」や「訪問サポーターフォローアップ研修」等を通じてKHJ香川県オリーブの会と親しくさせていただいています。

「NPO法人グローバルシップスこうべ」としては、「ひきこもり当事者交流会」を開催したり、「フリースクール」で学習支援をする一方、KHJのネットワーク絡みで「若者支援者交流会」を全国開催するなどの新プログラムにも取り組んでいます。当事者交流会は、香川で2回実施出来ました。

来年も1月29日の「訪問サポーターフォローアップ研修」にお邪魔したいと思っています。

#### 「友野岡山きびの会支援員」

きびの会に入会して3年半になるが変化はない。支援員としての課題は、当事者本人と会えないことであり、更なる研鑽が必要と思っている。また、支援方法では、日本福祉大学の竹中先生が「行政・団体をも巻き込み総体的な課題として取り組むべきだ」と話されていたことに共感した。

今後、当事者・家族から「助けてほしい」と声が上がった時には、出会いを大切に自分のできることをしていきたい。

#### 「NPO法人ウィークタイ 代表理事 泉 翔 氏 」

1年半前に森下徹さんとの出会いでオリーブの会と交流できるようになった。大阪では、支援者交流会を通じて当事者との交流を行っている。

これまで実施した「だらだら集会」、「堺市ひきこもり当事者会」、「読書会」はじめ九つの活動状況について映像を交えながら説明された。

当事者とは、色々な議論をしながら不安解消に努めている。ただ、当事者からは「今もしんどい」という声もあり、今後は、更に積極的な交流を続けていきたい。

なお、来年2月25・26日に内閣府の支援を受けて豊中市で「当事者全国集会」を予定している。

#### 「ポパイの会 平野代表理事」

— 映像を交え、ポパイの活動場所（居場所）と活動状況が報告された —

対象行事等 : 三豊市での「軽トラ市」から芋掘り作業など15件

- ・上記報告の後、ポパイの会の行事参加者から感想が語られた。
- ・当事者・親御さんなど多数の参加があり互いの交流を密にすることができた。

#### 「ポパイの会 加藤サポーター」

昨年12月から高松市の「外出支援」と「訪問支援」を行うとともに、本年4月からはKHJのサポーターとしても「訪問支援」を行っている。ただ、当事者本人に会えなくて親御さんと話して帰ることとなっているが、親御さんには役に立っているものと思っている。今後は、自分の道を考えながら、将来に役立たせたい。

#### 「ポパイの会 秦サポーター」

月1回を目途に「訪問支援」を行っている。ただ、当事者が無反応の為、親のペースになってしまう。出来れば、「アウトリーチで立ち直った経験者の話」が聞きたい。

居場所活動では、電話相談に当たっているが、本人からの相談はなかった。ただ、居場所では

レジンづくりやマージャン、ゲームなどが行われ、参加者同士の交流が盛んになっている。

### 「森下代表のコメント」

訪問サポートは大変であると思う、今後、アウトリーチで立ち直った方もいるのでお話をさせていただくように考えたい。

続いて、「作業所開設について」泉代表理事から提案説明が行われた。

現在、当事者他も元気回復し居場所に集まるようになったので、オリーブの会として、ひきこもり者のための拠点として「作業所」を立ち上げてはどうかと思う。

「B型作業所」は定員20名で、利用しやすいものとする。作業所開設には、「福祉サービス受給者証」の確保、体制面、運用面に加え、当分の間の運転資金も必要となる。ともかく、「B型作業所」という「種」を蒔いておきたい。そして、その種が「芽」を出し、「花」を咲かせるために会員の皆様のご協力をお願いしたい。

## 二部 「グループ別話し合い」

参加者（約40名）が4グループに分かれ、（各グループに森下代表を始め、サポーター、当事者が分散参加）、活発な意見交換が出来た。

### 第175回月例会（1月22日）の概要

— 講演に先立ち、松本代表理事から以下の通り話があった。 —

#### 一 急 告

◎「事務所 兼 居場所の緊急補修工事」に伴う「緊急募金」については、各会員には去る12月20日にお願ひ文書を発送しましたが、現在のところ募金実績額は34万円と、目標の48万円に大幅な未達の状況である。

このままでは、会の今後にとって大きな課題が残り、十分な資金の見通しのないまま緊急対応工事を決定・実施した役員会も責任を覚えます。会員の皆様には、不足額につき募金の協力を是非早期にお願ひしたい。

・関連して分からないことがあれば何でもご照会ください。(080-1991-7625 松本)

## 一部：演題「今からできるひきこもり支援のあり方」～私の経験を通して～

講師：林 恭子 氏 ひきこもり経験者で現在、横浜で古書店を経営

### ○ 体験談

林さんは、父親が転勤族で中学2年～高校2年まで高松市屋島で生活していた。県立高校に通っていた

が高校2年の5月の連休明けから頭痛、胃痛、不眠等で通えなくなりそのまま不登校になった。高校2年の終わりごろ福岡に転居し病院に通う。そこの精神科医が通信制高校や大検を奨めてくださり大学に入学した。しかし、すぐに行けなくなり中途退学した。

自分はまじめでありこのような状態に陥った自分が理解できずうつ状態になった。結局、16歳～20歳まで引きこもっていた。

20歳を過ぎると何とかアルバイトをして小遣いや受診費を稼いだ。あるソーシャルワーカーから夕方の仕事や夜の仕事もあると教えられ、学習塾などのアルバイトなどをした。

しかし、30歳半ばを過ぎるまで昼夜逆転は続き、自分が何のために生きているのか自分でわからない状態であった。

26歳を過ぎて「もう自分は限界」と感じ2年間再びひきこもる。

普通の健康な人は地上で生活をしている。ひきこもっている自分は地下生活で、息をするのも苦しく地獄そのものであった。自分は16歳から20年間地下生活をしてきた。36～37歳頃になりやっと地上の生活に戻れるようになった。

この間、心理学の本などもたくさん読んだが、きっかけや希望は見つからなかった。ひきこもりは暗いトンネルの中である。

その暗いトンネルからはい出せたきっかけは、8人目の精神科医が「あなたを半年診察してやっと理解できるようになった。」と言い、その先生が「あなたの子供のころからの違和感を大事にして生きていきなさい」と言いつづけてくれたことがある。

また、「当事者との出会い」でお互いに共感し合えたことがよかった。

今から思えば自分は学校の校則や管理が嫌であったが、本来、生真面目であったので胸の内に収めていた。母は3人姉妹の長女であった自分には厳しかった。自分が疑問や不満を抱えて生きてきたように思う。

ひきこもっている間は、なんで生まれてきたのか？なぜ生きているのか？働くとは何か？等もだえ苦しんだ。

## ○ ひきこもり支援について

今までの行政や民間団体などの支援は、どちらかというとなら就労に視点がおかれているため目立った成果は出ていないと思う。ダメな人、できない人を矯正して社会に戻すという発想である。

ひきこもり者は「社会は戦場である」と思っている。「野戦病院」で治療してまた戦場に戻しても意味がない。

支援する側と支援される側になっている関係は駄目である。

ひきこもり者は『なぜ生きているのか』、『なぜ働かなければならないのか』と真剣に考えているのに「とりあえず働け」と言っても結果は明らかである。

ひきこもり支援のポイントは「ひきこもり QOL」＝「ひきこもっていることが安心の状態を作る」ことである。家族の中でも一人になりたい。家族が長期の旅行に行ってほしいとほとんどの当事者は思っている。自分に関心を持たれるのが苦しい。親は自分の人生を歩んでほしい。（QOL: Quality Of Life）

自分は自分の人生を生きる。

ひきこもりの男性たちは本当にやさしい、また、まじめである。また、社会に関してあるいは自分の関心事については非常に詳しい。これらは宝である。この宝を社会の見えるところに引き出さない手はない。

これらの能力を生かす方法を考えるのが重要な支援の方法である。

国も行政も当事者活動への支援にお金を出すべきだと思う。

## ○ 自立について

自立とは「他人の力を借りることができるようになること。」

自律とは「自分の内なる声に従うこと。」⇒適応能力がつく

## ○ 親に望むこと

子供に幸せになってほしいと思うのは当たり前。しかし、子供にこうなってほしい、ああなってほしいと思わないこと。

本人は自分の気持ちを聴いてほしいと思っている。本当に聴いてくれる人には話す。

本人にどうしてほしいのか聞く。ありのまま聴く。「素」になって聴く。

親は腹をくくるべき。子供がどう生きていくかは不安であるが本人が決めることである。

当事者は力を持っている。自分も振り返れば20年前に、今ここでみんなに話している自分は絶対想像できなかった。

現在、「ひきこもり女子会」を中心に数か所の活動に関わり活動している。

これからは、ひきこもりの人もそうでない人もありのまま現在の社会の中で生きていける世の中にしなければならぬ。

## ○ お知らせ

・ イベント 大阪府豊中市 「若者当事者全国集会」 平成29年2月25～26日

・ 林さんのおすすめ本の紹介

① 泉谷 閑示 (精神科医)

『「普通がいい」と言う病』 講談社現代新書

『「仕事なんか生きがいにするな」生きる意味を再び考える』 幻冬舎新書

② 勝山 実 (ひきこもり名人)

『安心ひきこもりライフ』 太田出版

③ 丸山 康彦 (元当事者/支援者)

『不登校・ひきこもりが終わるとき』 ライフサポート社

④ 関口 宏 (精神科医)

『ひきこもりと不登校—こころの井戸を掘るとき』 講談社プラスアルファ新書

⑤ 関水 徹平 (社会学者)

『「ひきこもり」経験の社会学』 左右社

## **ある出席者からの感想**

ひきこもりのいろんな講演を聞いたが、その時々感動したりなるほどと思って納得したりしていた。しかし、何回講演を聞いても自分の子供は変わらない。親の自分もそう変わらない。いくら講演を聞いて

も・・・・と最近思っていた。

しかし、今回の講演は林さんの不登校の原因がいじめ等でないこと、転勤族であったこと、「いきる」ことを真剣に悩んできたこと、自殺は考えていないことなど、なんとなく自分の息子によく似ていると思いき近感があった。もちろん話の内容もぴったり感があつた。

36～37歳になってやっと一般社会と向き合えるようになったと聞いたとき、自分の息子は33歳である、あと4～5年で何とかなるのかという展望が見えました。

## 二部 グループ別話し合い

今回は、出席が多数であり4グループに分かれた。林さんには、各グループの輪に順次入っていただき、アドバイスや疑問点にお答えいただいた。限られた時間ではあつたが実り多い話し合いとなつた。

## その後 講師を囲んでの懇談会

希望者を募り定例のプログラム終了後、講師を交え軽食をとりながら約1時間の懇談をしました。初めての試みでしたが、参加者約20名がリラックスした雰囲気の中でいい時間が持てました。(なお、定例プログラム参加者は60名定席のほぼ満席でした。)

## 【2017年2月以降の理事会・運営委員会等の予定】

内 容	月	日	曜日	時 間	担 当
● 理事会・第11回運営委員会	2	18	土	13:30～16:30	
2016年度第12回運営委員会	3	18	土	13:30～16:30	
● 理事会・第13回運営委員会 (総会前議案審議ほか)	4	8	土	13:30～16:30	
2017年度第1回(4月)運営委員会	4	15	土	13:30～16:30	
ひきこもり相談窓口業務 (来所相談も可)(注)第5は休み	2	4, 11, 18, 25	土	9:00～16:00	泉・川井ほか
※(先ずは☎087-802-2567お待ちしております!)	3	4, 11, 18, 25	土	9:00～16:00	泉・川井ほか

◎定例総会は、4月30日(日)13:30から開催予定です。(会場は現在検討中)

以 上